

取扱説明書

保証書付き

保証書は裏表紙に付いています。

家庭用

日立浅深両用ポンプ

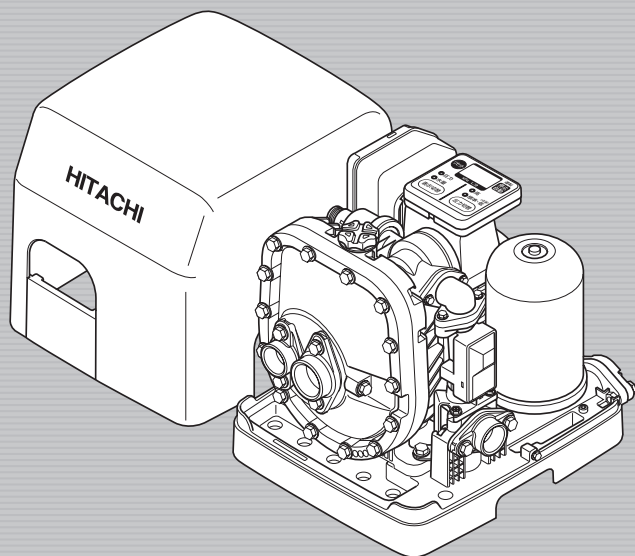
型式

シーエム ピー ワイ
〔单相〕 CM-P250Y

CM-P400Y

CM-P600Y

シーエム ケー ワイ
〔三相〕 CM-K750Y



このたびは日立ポンプをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくご使用ください。

お読みになったあとは、大切に保存してください。

「安全上のご注意」→(P.2~4)をお読みいただき、正しくお使いください。

- 据え付けは専門工事が必要です。販売店・工事店へ依頼し、お客様自身では行わないでください。
- ご購入のポンプの型式確認は、ポンプ本体の表示をご覧ください。

HITACHI

Inspire the Next

もくじ

ご使用前に

安全上のご注意	2
使用上のご注意	5
各部のなまえと付属品	6
操作パネルのはたらき	7
操作パネルの表示について	7

据え付け工事について〔販売店様・工事店様用〕

据え付け前の確認	8
井戸の砂について	8
吸上高さの確認	8
押上高さの確認	9
電源の確認	9
据え付け場所の確認	9
ほかの機器との組合せについて	9
据え付け前のご注意	10
配管工事について	11
ポンプと配管の接続	11
配管の施工の基礎	11
配管工事の際のお願い	12
据え付け方法	12
配管の互換性について	14
ジェットの互換性について	14
配線工事について	15
アース線の接続と漏電遮断器について	15
電源電線について	15
試運転	16
試運転のしかた	16
運転状態の確認	16
運転のしかた	17
運転圧力について	17
数値表示の切り替えかた	18
運転圧力の切り替えかた	18
除菌器の接続について	19
結線について	19
カルキ量の調整について	19
防寒について	19
凍結防止策	19

こんなときは〔販売店様・工事店様用〕

お困りのときは	20
操作パネルにこんな表示が出たら	20
水漏れを確認するときは(強制運転による水漏れチェック機能)	21
保証とアフターサービス	22
消耗部品について	22

仕様




仕様	24
製品寸法	24
仕様表	25
据付チェック表	26
保証書	28

安全上のご注意

ご使用になる人や、ほかの人への危害、財産への損害を未然に防止するため、お守りいただくことを次のように説明しています。また、本文中の注意事項についてもよくお読みのうえ、正しくお使いください。

■ここに示した注記事項は

表示内容を見逃して誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

		絵表示の例
 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷を負うことが想定される」内容です。	 「警告や注意を促す」内容のものです。
 注意	この表示の欄は、「軽傷を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される」内容です。	 してはいけない「禁止」内容のものです。
		 実行していただく「指示」内容のものです。

※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

警告

電源プラグや電源電線は



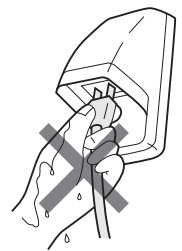
- 単相100V用ポンプは定格15A以上・交流100Vのコンセントを単独で使う
三相200V用ポンプは定格15A以上の電源ブレーカーを単独で使う
- 電源プラグを抜くときは、きちんと電源プラグを持って抜く
感電やショートして発火することがあります。
- 電源プラグの刃や、刃の取り付け面にほこりが付着している場合は乾いた布でよくふく
火災の原因になります。



お手入れの際や長期間ご使用にならないときは、電源プラグをコンセントから抜くか、ブレーカーを切る
感電やけがの原因になります。



- ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない
感電の原因になります。
- 傷んだ電源電線や電源プラグ、緩んだコンセントは使用しない
感電・ショート・発火の原因になります。
- 電源プラグは根元まで差し込む
感電やショートして発火することがあります。
- 電源電線を傷つけない
〔傷つけ・加工・無理な曲げ・引っ張り・ねじり・重いものを載せる・挟み込む・たばねるなどしない〕
電源電線が破損し、発煙・発火の原因になります。
- テーブルタップによるタコ足配線はしない
発煙・発火の原因になります。
- 延長コードは使用しない
過熱し、発煙・発火の恐れがあります。
- 子どもだけで使わせない
- 電源プラグ、電源コードを水につけたり、水をかけたりしない
- 電源プラグを水につけた場合は使用しない
漏電や感電、故障の原因になります。



警告

配線・アース線は



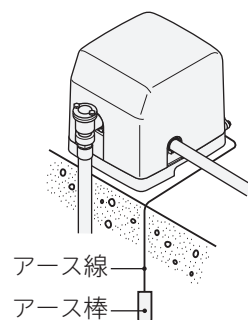
配線工事は電気設備技術基準や、内線規程に従って、安全に行う

誤った配線工事は、感電や火災の恐れがあります。



アース線を取り付け、専用の漏電遮断器を設置する

アース線を取り付けないと漏電のとき感電することがあります。
アースの取り付けは、電気工事店または販売店にご相談ください。



その他



ポンプを水道管に直接配管しない

この取扱説明書のポンプを水道管に直接配管することは、法律で禁止されています。



動かなくなったり、煙が出ている、変なおいがするなどの異常がある場合は、事故防止のためすぐに電源プラグをコンセントから抜くか、ブレーカーを切って、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼する

感電や漏電・ショートによる火災の恐れがあります。



分解したり、修理・改造しない

火災・感電・けがの原因になります。(修理は販売店などにご相談ください)



●ポンプに毛布や布などをかぶせたり、ポンプ内部に物を入れない

過熱による発煙・発火の原因になります。

●ポンプカバーを外したまま使用しない

雨やほこりにより絶縁劣化して、感電や火災の恐れがあります。
※ポンプカバーを取り付ける際は、電源電線およびアース線を挟み込んで傷つけないように注意してください。

●製品が包装されているビニール袋をかぶらない

窒息の恐れがあります。

本体の近くには



●引火物の近くには設置しない〔ガスボンベ・灯油・ガソリンタンクなど〕

爆発や火災の恐れがあります。
設置距離など、各都道府県の条例をご確認ください。

●可燃物の上には設置しない〔木材・段ボールなど〕

火災の恐れがあります。

●ローソク、蚊取り線香、たばこなどの火気を近付けない

火災の恐れがあります。

●ポンプ本体には、磁石などの磁気を帯びたものを近付けない

誤動作することがあります。

安全上のご注意 (続き)

⚠ 注意

運転前後、運転中は

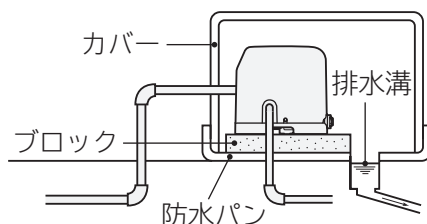


- **モーター、制御基板に触れない**
高温になっていますので、やけどの原因になります。
- **空運転(水源に水のない状態での運転)はしない**
ポンプ内の水が熱湯になり、やけど、故障の原因になります。
- **電源プラグを抜いたり、ブレーカーを切った状態でも、操作パネルの表示が消えるまで制御基板には触れない**
感電の原因になります。

そのほか



- **ポンプの上に物を載せたり、人が乗ったりしない**
変形、脱落により、けがをする恐れがあります。
- **防水処理、排水処理されていない床面に設置しない**
水漏れが起きた場合、大きな被害につながる恐れがあります。
※床面が防水処理・排水処理されていない場合の水漏れ被害については責任を負えません。
※ポンプの寿命などで水漏れを起こした場合、発見が遅れると周囲が水浸しになり、大きな補償問題になる場合があります。



- **清水以外の液体や温水(40℃以上)には使用しない**
破損により、けがや感電の恐れがあります。
- **標高の高い場所には設置しない**
揚水量低下の恐れがあります。
- **発電機での電源供給や、車両、船舶での使用、また延長コードでの使用はしない**
電力が安定せずに、正常なポンプの運転ができません。
- **他社の除菌器は結線、接続しない**
制御基板故障の原因になります。

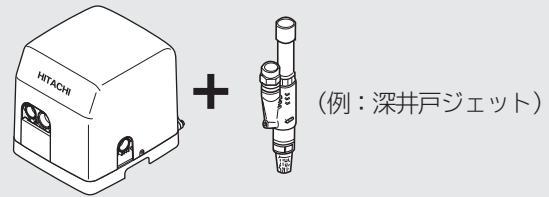


- **製品の取り扱い時は、けが防止のため手袋をして作業を行う**
- **据え付けは、お買い上げの販売店、または専門業者に依頼する**
ご自分で据え付け工事をされ、不備があると、水漏れや感電・火災の原因になります。
- **飲用水として使用する場合は、水質検査を実施する**
飲用水として使用する場合は、保健所の指示に基づき水質検査を実施してください。
水質によっては健康を損なう原因となります。
- **本体を運搬するときは、本体底面を持って2人以上で運ぶ**
けが防止のためです。
- **制御基板や圧力センサーなどをつかんだり、本体を引きずって運ばない**
故障の原因になります。

使用上のご注意

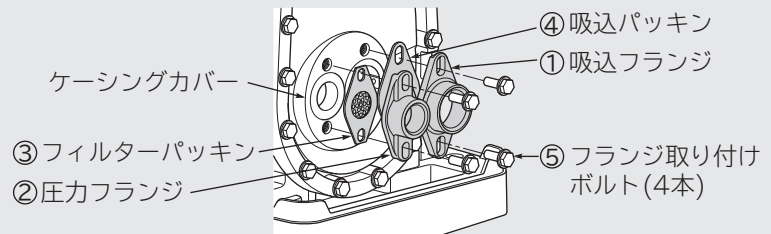
■別売りの「標準ジェット」「深井戸ジェット」と組み合わせて使用する

ジェットを使用しないと、呼び水がたまらない、水が上がらないなど、ポンプが正常に運転できません。



■取り外した部品は捨てないで保管する

水位の変化により「標準ジェット」から「深井戸ジェット」に取り替える場合に使用します。



■運転中は電源プラグを抜かない

故障の原因になりますので、**停止自動** を押し、ポンプを **OFF** にしてから電源プラグを抜くかブレーカーを切ってください。

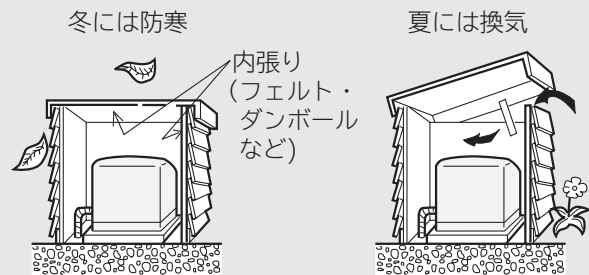
■テレビやラジオなどの電子機器を近付けない

テレビ画面の乱れや、ラジオ・テレビの雑音の原因になります。

■冬期には凍結防止策を行う

凍結による破損事故については責任を負えません。

凍結防止対策を行ってください。→(P.19)



■長期間水を使用しなかった場合は、しばらく通水し、きれいな水になってから使用する

■配管の凍結防止を目的として、水栓から少量の水を流し続けることはしない

少量の水を流し続けると、ポンプの運転・停止がひん繁になり、寿命を縮める原因になります。

■ポンプが凍結した場合は、点検・修理を依頼する →(P.23)

ポンプが動作しない・停止しない場合があります。また、ポンプ内部が破損・故障している恐れがあります。

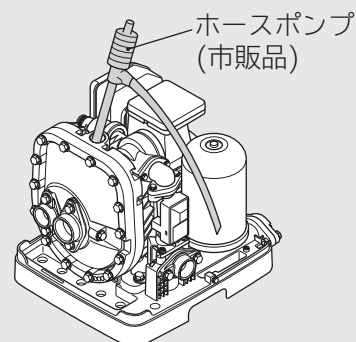
長期間使用しない場合はポンプの水抜きをする

電源プラグをコンセントから抜いている場合、ポンプの凍結防止機能→(P.19)が作動せず、ポンプヘッド部が凍結し、破損する恐れがあります。

下記の手順で水抜きを行ってください。

再びご使用されるときは、呼び水を入れてから運転してください。→(P.16)

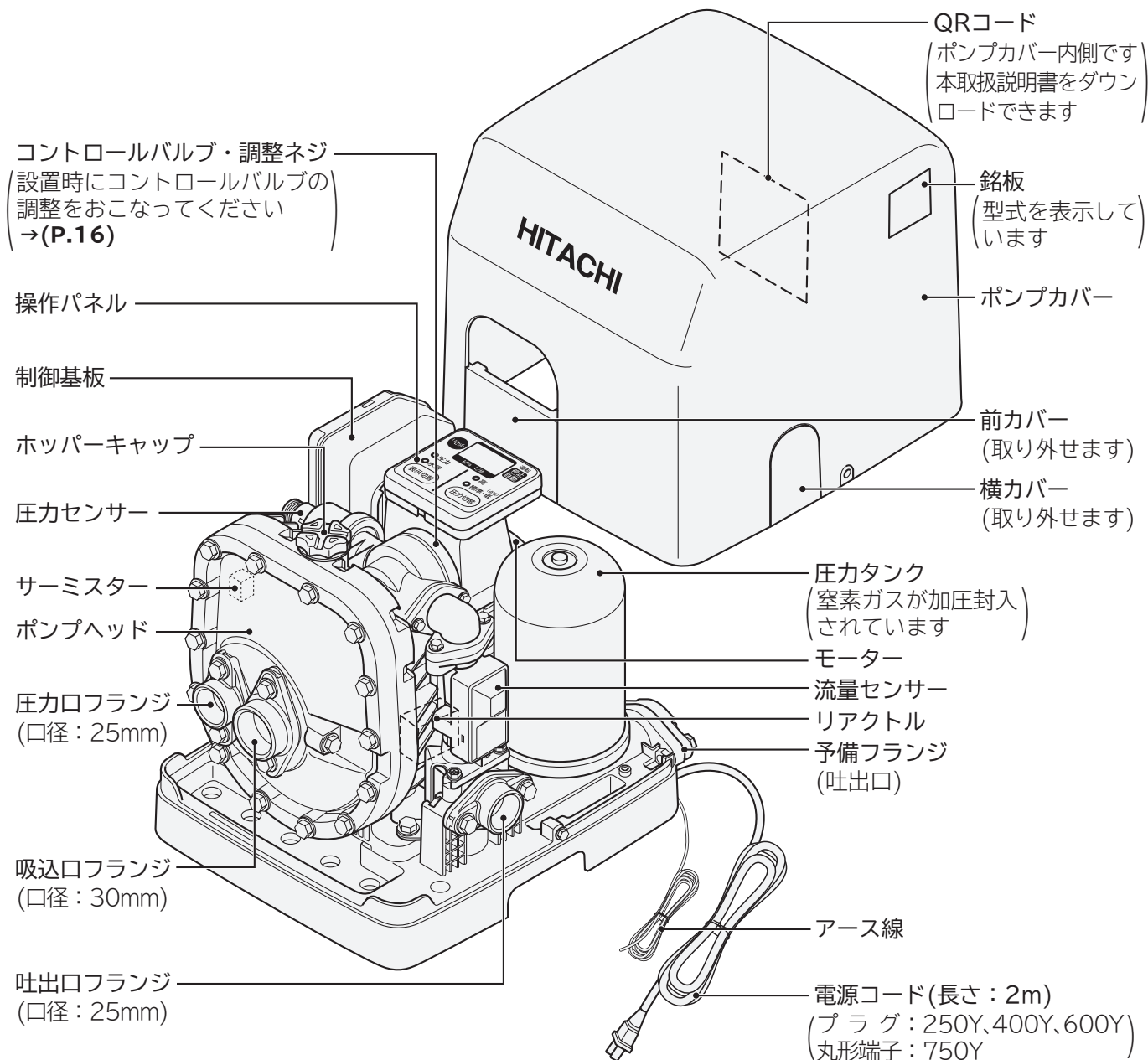
- 1 **停止自動** を押し、ポンプを **OFF** にする
- 2 電源プラグを抜くか、ブレーカーを切る
- 3 吐出側の水栓を開き、圧力を逃がす
- 4 ホッパーキャップを外し、ホースポンプ(市販品)を奥まで差し込み、水を抜く
- 5 水が抜けたら、ホッパーキャップを取り付ける



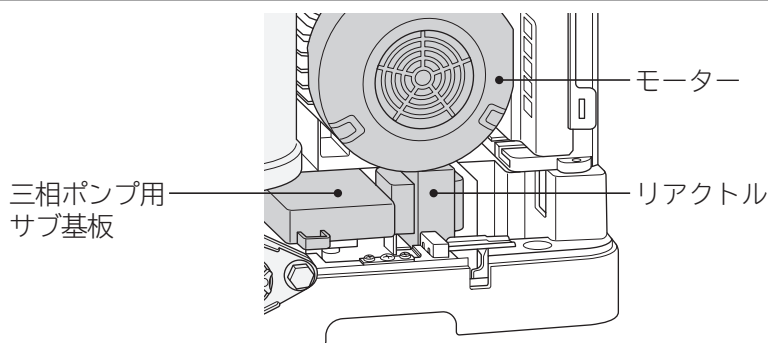
各部のなまえと付属品

製品は検査の上お届けしておりますが、輸送中に破損や付属品の脱落などが生じる場合があります。開封後に以下の部品をご確認ください。

CM-P250Y・CM-P400Y・CM-P600Y・CM-K750Y



CM-K750Y の場合



ご注意

ポンプ開梱時、通水試験の残水がフランジより出ることがあります。

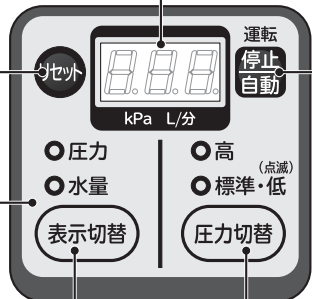
操作パネルのはたらき

圧力表示・水量表示・お知らせ表示

通常は吐出圧力または吐出水量を表示します。

リセットボタン
お知らせ表示の解除などに使用します。

※保護シートを貼り付けています。はがれても問題ありません。



停止/自動ボタン
ポンプ運転中に押すと **OFF** を表示し、ポンプが停止します。もう一度押すと、**on** →機種コード(例:**25c**) →圧力または水量を表示し、運転を開始します。

表示切替ボタン
表示を切り替えるときに使用します。詳細は、「数値表示の切り替えかた」を参照してください。→(P.18)

圧力切替ボタン
圧力を切り替えるときに使用します。詳細は、「運転圧力の切り替えかた」を参照してください。→(P.18)

操作パネルの表示について

運転中の表示 (数値表示は、約 10 分後に消灯します)

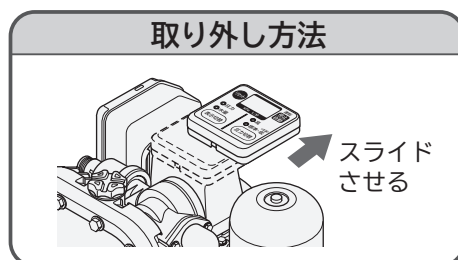
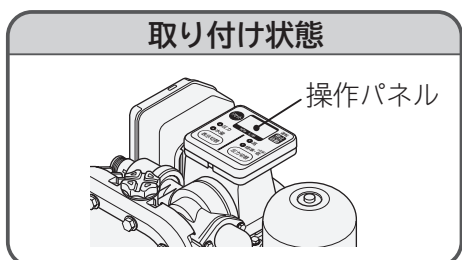
表示		内容
●圧力	数値	[例] 250 ポンプの吐出圧力を表示します。例えば 250 のときは250kPaです。モーターが停止している状態です。
	点灯時	[例] 200. ポンプの吐出圧力を表示します。例えば 200. のときは200kPaです。モーターが回転している状態です。(右下にドット「.」表示あり)
●水量	数値	[例] 0 ポンプの吐出水量を表示します。例えば 0 のときは0L/分です。モーターが停止している状態です。
	点灯時	[例] 20. ポンプの吐出水量を表示します。例えば 20. のときは20L/分です。モーターが回転している状態です。(右下にドット「.」表示あり)
●圧力 または ●水量	数値	[例] . . ポンプの電源が入っており、モーターが停止している状態です。 (表示切替) を押すと、吐出圧力表示または吐出水量表示に戻ります。
	消灯時	[例] . . . ポンプの電源が入っており、モーターが回転している状態です。(右下にドット「.」表示あり) (表示切替) を押すと、吐出圧力表示または吐出水量表示に戻ります。

流量表示と実流量の関係	表示	0	4	5	80	8-
	流量(L/分)	0~3		4~80		81以上

ご注意 流量センサーの表示は目安の水量です。水位が深い場合、キャビテーションにより正確に表示しないことがあります。異常ではありません。

操作パネルの取り付け・取り外しについて

操作しにくいときは、取り外してご使用ください。ご使用後は、元の位置に戻してください。



据え付け工事について

(販売店様・工事店様用)

【工事をされる方へのお願い】

- 据え付けは専門工事が必要です。
販売店・工事店へ依頼し、お客様自身では行わないでください。
- 製品機能が十分発揮できるように、この「据え付け工事について」の内容に沿って正しく取り付けてください。
- 据え付け後は試運転を行い、水漏れや運転状態に異常がないか確認してください。
- 据え付け後は「据え付けチェック表」を使用し、各部の確認を行ってください。→(P.26)

据え付け前の確認

井戸の砂について

- 新しく井戸を掘られた場合は、あらかじめ井戸の砂を十分に除去してから配管してください。
- 砂を吸い上げやすい井戸の場合、別売りの「砂こし器」を取り付けてください。→(P.10)

吸上高さの確認

吸上高さは、以下の手順で水位(ポンプの中心から水面まで)と吸込管の全長から算出してください。吸上高さが仕様を超えた場合、ポンプが停止しません。

1 水位の確認

運転中の水位変化、渇水期の水位低下を考慮し、ポンプの中心から水面までの高さを確認してください。

2 吸込管全長の確認

吸込管全長を確認してください。
吸込管全長は吸込管先端からポンプの中心までです。

3 吸上高さの算出

水位と吸込管全長から吸上高さを算出してください。

吸上高さの算出式

$$\text{水位} + (\text{吸込管全長} \times 0.1) = \text{吸上高さ}$$

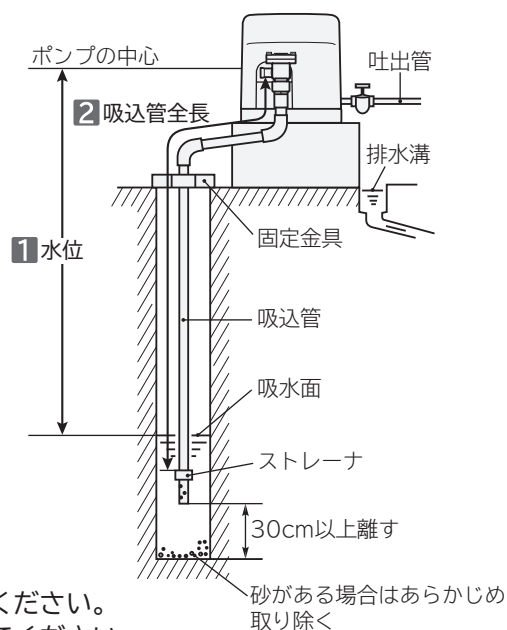
【例】水位が5m、吸込管全長が10mのときの吸上高さ
 $5\text{m} + (10\text{m} \times 0.1) = 6$

4 吸上高さの確認

算出した吸上高さが、下表の仕様の範囲であることを確認してください。
吸上高さはポンプ型式によって異なります。下表により確認してください。

吸上高さとジェット部品(別売り)型式の関係

ポンプ型式	吸上高さ			
	標準ジェット (浅井戸配管)	標準ジェット (深井戸配管)	深井戸ジェット	
	~7m	7~12m	12~24m	24~35m
CM-P250Y	J25-7Y	J25-7Y	J25-24Y	—
CM-P400Y	J40-7Y	J40-7Y	J75-24Y	J75-35Y
CM-P600Y	J75-7Y	J75-7Y		
CM-K750Y				



ご注意

- 配管口径はポンプ型式によって異なります。→(P.25)
- フランジ管に配管口径より細い配管を使用した場合、配管抵抗により水栓から水が出ない場合があります。

押し高さの確認

押し高さは、以下の手順で水栓高さ(ポンプ中心から水栓まで)と吐出管の全長から算出してください。押し高さがポンプの仕様を超えた場合、蛇口などから水が出なかったり、ポンプが動作しない場合があります。押し高さはポンプ型式および運転圧力によって異なります。→(P.25)

1 水栓高さの確認

ポンプの中心から水栓までの高さを確認してください。

2 吐出管全長の確認

吐出管全長を確認してください。

吐出管全長は吐出管先端からポンプまでです。

3 押し高さの確認

水栓高さとして吐出管全長から押し高さを算出してください。

押し高さの算出式

$$\text{水栓高さ} + (\text{吐出管全長} \times 0.1) = \text{押し高さ}$$

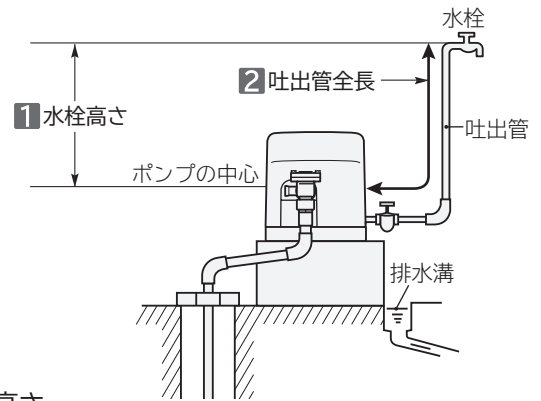
【例】水栓高さが3m、吐出管全長が20mのときの押し高さ
 $3\text{m} + (20\text{m} \times 0.1) = 5\text{m}$

4 ポンプ型式の確認

算出した押し高さが、仕様の範囲であることを確認してください。→(P.25)

水栓が複数あるときは、それぞれの配管で算出し、最も高くなる押し高さで判断してください。

押し高さはポンプ型式および運転圧力によって異なります。→(P.25)



ご注意 フランジ管に配管口径より細い配管を使用した場合、配管抵抗により水栓から水が出ない場合があります。

電源の確認

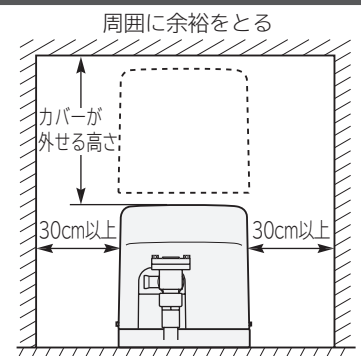
ポンプ型式によって相・電源電圧が異なります。

下表により確認してください。

ポンプ型式	相・電源電圧
CM-P250Y、CM-P400Y、CM-P600Y	単相・100V
CM-K750Y	三相・200V

据え付け場所の確認

- 点検・修理のしやすい場所を選んでください。
- ポンプはできるだけ井戸の近くに取り付けてください。
- 水平な場所に据え付けてください。凹凸のある場所や傾いた場所に据え付けた場合、振動や騒音が大きくなる場合があります。
- ガス類や引火物の近くには据え付けしないでください。火災の恐れがあります。
- 可燃物(木材や段ボールなど)の上には設置しないでください。火災の恐れがあります。



ほかの機器との組み合わせについて

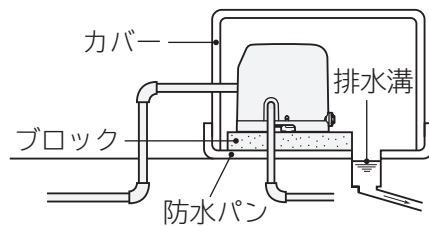
除鉄・除菌システム、除菌器および浄水器と組み合わせる場合は、各器の耐水圧仕様を確認してください。ポンプの停止圧が耐水圧を超える場合は、減圧弁(市販品)を使用し、組み合わせる機器に過大圧力が加わらないようにしてください。

据え付け前のご注意

⚠ 注意

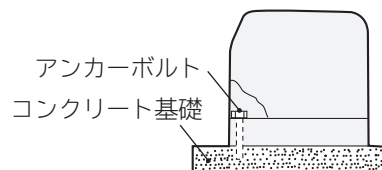


防水処理・排水処理されていない床面に設置しない
 水漏れが起きた場合、大きな被害につながる恐れがあります。
 防水パン・カバーなどで、吹き出した水が排水できるように
 してください。
 ※カバーは風通しがよい構造にしてください。
 ※床面が防水処理・排水処理されていない場合の水漏れ被害
 については責任を負えません。



■できるだけ風雨や直射日光が当たらないところに据え付ける
 製品を長持ちさせるため、屋外に据え付けるときは、ポンプ小屋を
 作ってください。

■水平に設置し、動かないようアンカーボルトで固定する
 基礎は沈下を防ぐために、コンクリートで作ることをおすすめ
 します。



■冠水しない場所に設置する

■吸込管を共有した2台以上の並列接続はしない

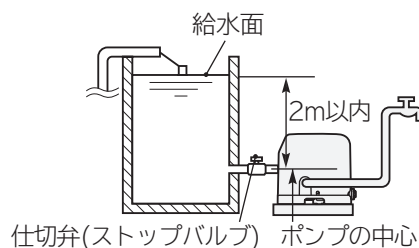
揚水量の減少や、ポンプが正常に動作しなくなる場合があります。

■ポンプの直列接続はしない

ポンプ内の水圧が上がり、水漏れする恐れがあります。

■給水面がポンプヘッドより高くなる時(押込揚程のとき)は、
 2m以内にする

- 2m以上になるとウォーターハンマー現象(水撃作用)などにより、
 ポンプの部品が破損したり、水漏れする恐れがあります。
- 吸込口の近くに仕切弁(ストップバルブ)を取り付けてください。
 点検・修理の際に必要です。



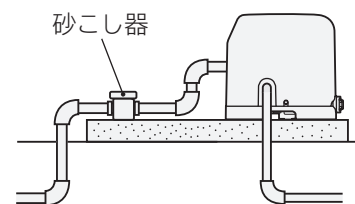
■市販の給水機器との組み合わせについて

- フラッシュバルブなど一度に大量水使用する機器と組み合わせると、
 水が途切れますので使用は避けてください。
- ボイラーへの給水は、減圧弁を使用してボイラーに過大圧力が
 加わらないようにしてください。

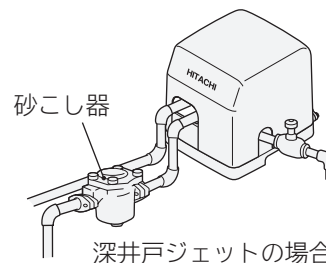
ご注意 ポンプ運転圧力は、「仕様」→(P.25)を参照してください。

■砂を吸い上げやすい井戸には、別売りの「砂こし器」を取り付ける

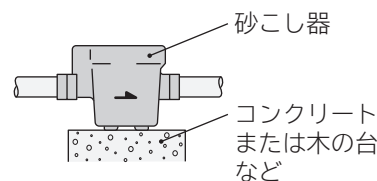
- 砂こし器はポンプの吸込側に取り付けてください。
 吐出側に取り付けると、砂こし器が水圧に耐えられず、水漏れする
 恐れがあります。
- ポンプヘッド部の砂かみや摩耗を防ぎます。
- 砂こし器の質量が配管にかからないよう、砂こし器はコンクリート
 または木の台などにのせてください。
 配管重量がかかると、管の継ぎ目にすき間ができて空気を吸い込み、
 揚水しないことがあります。



標準ジェット(浅井戸配管)の場合



深井戸ジェットの場合



砂こし器	配管口径	材質
GF-25Y	25mm	砲金(青銅)
GF-C25Y	25mm	鋳鉄
GF-30Y	30mm	砲金(青銅)
GF-C30Y	30mm	鋳鉄

小売りの価格については、取扱店にお問い合わせください。

配管工事について

ポンプと配管の接続

使用する配管口径

市販のバルブ用ソケットを用意して、下記配管口径の水道用硬質塩化ビニル管で接続してください。

ポンプ型式	吸込側							吐出側 吐出管 配管口径
	ジェット型式	必要井戸径	吸上高さ	配管口径				
				吸込管	圧力管	配管質量目安*		
CM-P250Y	標準ジェット	J25-7Y	—	~7m	25mm	—	~7kg	25mm
		J25-7Y	VP100以上 (100mm以上)	7~12m	30mm	25mm	18~31kg	
	深井戸ジェット	J25-24Y		12~24m	30mm	30mm	31~62kg	
CM-P400Y	標準ジェット	J40-7Y	—	~7m	30mm	—	~7kg	
		J40-7Y	VP100以上 (100mm以上)	7~12m	30mm	25mm	18~31kg	
	深井戸ジェット	J75-24Y		12~24m	30mm	30mm	31~62kg	
深井戸ジェット	J75-35Y	24~35m		30mm	30mm	62~90kg		
CM-P600Y CM-K750Y	標準ジェット	J75-7Y	—	~7m	30mm	—	~7kg	
		J75-7Y	VP100以上 (100mm以上)	7~12m	30mm	25mm	18~31kg	
	深井戸ジェット	J75-24Y		12~24m	30mm	30mm	31~62kg	
深井戸ジェット	J75-35Y	24~35m		30mm	30mm	62~90kg		

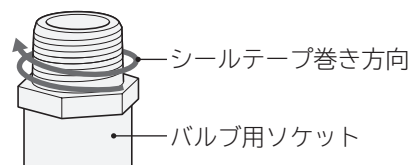
※配管全長が長くなるほど、質量は目安より大きくなります。
配管内に水が入っている状態の質量目安となります。

配管の施工の基礎

フランジとバルブ用ソケットの接続方法

1 シールテープの巻き方

水漏れや空気吸い込み防止のため、市販のバルブ用ソケットにシールテープを十分に巻いてください。シールテープは、バルブ用ソケットのねじと逆方向に巻いてください。

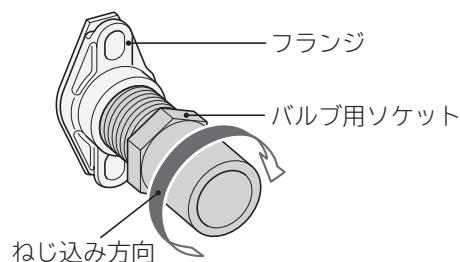


2 バルブ用ソケットにフランジを取り付ける

フランジを本体から取り外し、フランジにバルブ用ソケットを取り付けてください。

本体にフランジを取り付けたままバルブ用ソケットを取り付けると、破損の原因になります。

取り付けの際には、パイプ用レンチなどを用いて十分にねじ込んでください。



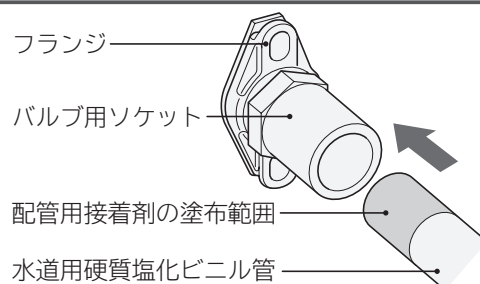
水道用硬質塩化ビニル管の接着方法

1 配管用接着剤を塗布する

市販の水道用硬質塩化ビニル管に接着剤を塗布します。

2 配管と継手を接続する

水道用硬質塩化ビニル管を継手(バルブ用ソケットやエルボなど)に差し込んでください。



ご注意

- 水道用硬質塩化ビニル管は継手に差し込んだまま60秒以上保持してください。配管用接着剤が硬化する前に手を離すと、抜けてしまう場合があります。
- 通水は、接着剤が乾いてから行ってください。硬化する前に通水すると、ポンプが配管用接着剤を吸い込み、ポンプ内(羽根車や逆止弁など)につまり、揚水不能の原因になります。

配管工事について (続き)

配管工事の際のお願い

警告



ポンプを水道管に直接配管しない

この取扱説明書のポンプを水道管に直接配管することは、法律で禁止されています。

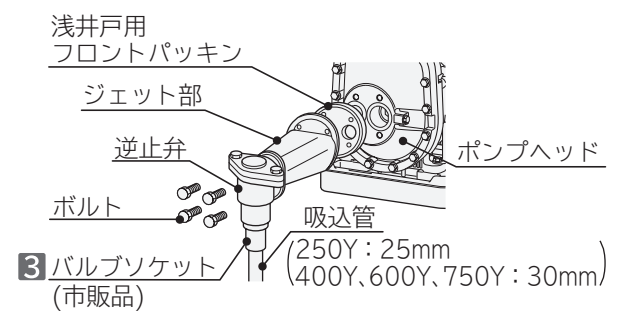
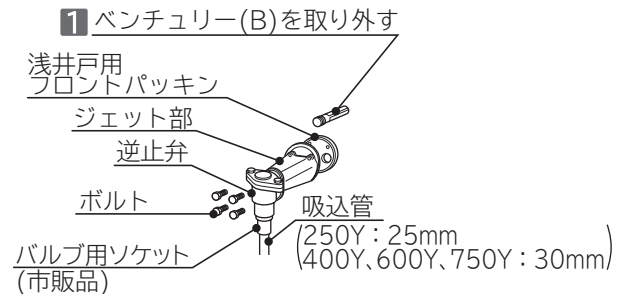
- ジェットに付属の配管用固定金具を用いて、配管重量がポンプに加わらないようにする
- 配管の継ぎ目は空気の吸い込みや水漏れがないように行う
性能低下の原因になります。
- 配管工事の際、配管の中に切りくずや小石、接着剤が入らないようにする
ポンプの羽根車や逆止弁に異物がつまり、揚水不能の原因になります。
- 水の抵抗を少なくするため、配管はできるだけ短く、曲げる個所を少なくする
性能低下、揚水不能の原因になります。
- 過大な力でねじ・ボルト類を締め付けない
破損の原因になります。
- 製品据付後、据付チェック表を使用し、各部の確認を行ってください。→ (P.26)

据え付け方法

- 吸上高さが7m以内のときは、12ページに沿って施工してください。→ (P.12)
- 吸上高さが7m～12mのときは、13ページに沿って施工してください。→ (P.13)
- 吸上高さが12mを超えるときは、深井戸ジェットで配管を行ってください。→ (P.14)

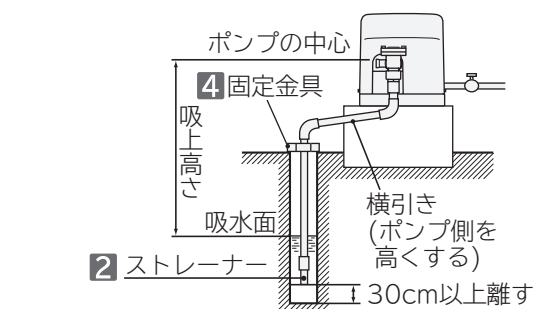
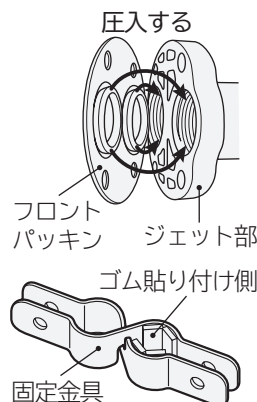
標準ジェットを浅井戸で使用する場合(吸上高さが7m以内のとき)

- 1 ベンチュリー(B)を取り外してください
- 2 吸込管の先端にストレーナー(ジェット部品に付属)を取り付ける
- 3 ジェットにバルブ用ソケット(市販品)をねじ込み、吸込管を接続する
- 4 固定金具(ジェット部品に付属)を取り付ける
(配管重量がポンプに加わらないようにする)
固定金具を取り付けないと、配管質量によりポンプが傾き、水平に設置できません。



ご注意

- 水封性・作業性向上のためフロントパッキン(ジェット部品に付属)の突部をジェット部に圧入後、作業を行ってください。
- J25-7Yに固定金具を取り付ける場合は、ゴム貼り付け側で吸込管を固定してください。取り付け向きを間違えると配管を固定することができません。
- 水位にかかわらず標準ジェットに付属している押しバネは使用しません。

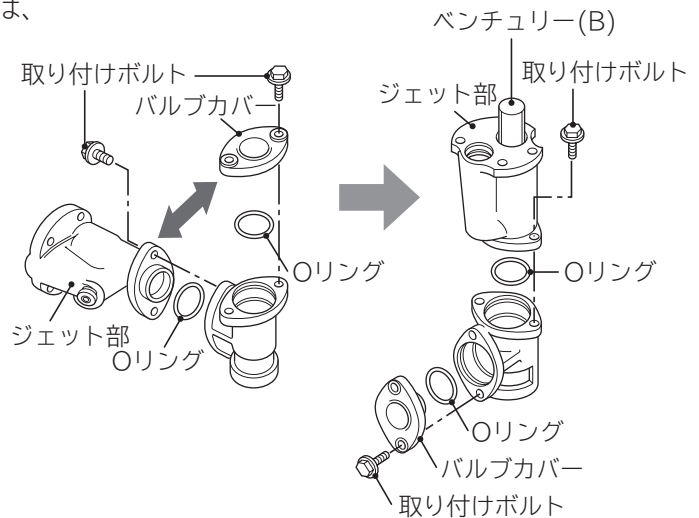


標準ジェットを深井戸で使用する場合(吸上高さが7~12mのとき)

■標準ジェットの組換え

標準ジェットを7~12mの深井戸で使用する場合は、以下の手順で「深井戸用」に組換えてください。

- 1 標準ジェットに付属の取り付けボルト、バルブカバー、Oリング、ジェット部を取り外す
- 2 バルブカバーとジェット部を入替え、取り付けボルトで固定する
Oリングの付け忘れにご注意ください。

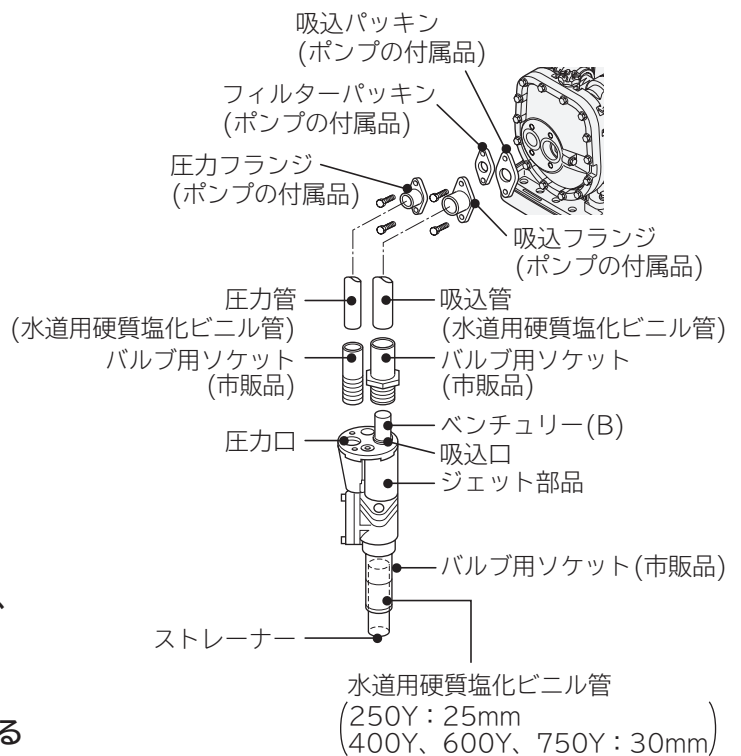


■ご注意

ベンチュリー(B)は取り外さないでください。水が出ないなどの不具合の原因になります。

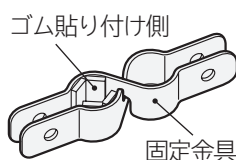
■据え付け方法

- 1 市販品のバルブ用ソケット、水道用硬質塩化ビニル管を使用し、標準ジェットの先端に付属のストレーナーを取り付ける
- 2 市販品のバルブ用ソケット、圧力管(水道用硬質塩化ビニル管)をジェット部の圧力口に取り付ける
- 3 市販品のバルブ用ソケット、吸込管(水道用硬質塩化ビニル管)をジェット部の吸込口に取り付ける
- 4 市販品のバルブ用ソケットを使用し、吸込管を吸込フランジに取り付ける
- 5 市販品のバルブ用ソケットを使用し、圧力管を圧力フランジに取り付ける
- 6 ポンプ本体に吸込フランジ、吸込パッキン、圧力フランジ、フィルターパッキンを取り付ける
- 7 固定金具(ジェット部品に付属)を取り付ける(配管質量がポンプに加わらないようにする)
固定金具を取り付けないと、配管質量によりポンプが傾き、水平に設置できません。



■ご注意

J25-7Yに固定金具を取り付ける場合は、ゴム貼り付け側で圧力管を固定してください。取り付け向きを間違えると配管を固定することができません。



配管工事について (続き)

深井戸ジェットの場合 (吸込高さが12mを超えるとき)

1 ジェット部の接続

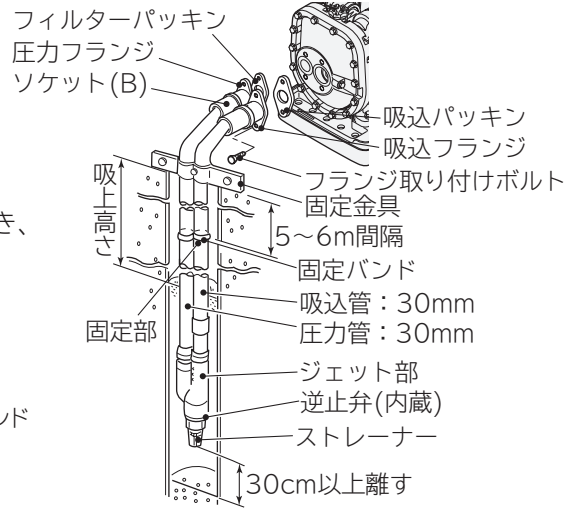
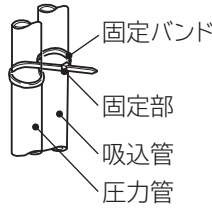
30mm水道用硬質塩化ビニル管によって配管します。

2 固定金具の取り付け

ジェット部および配管質量がポンプに加わらないように吸込管、圧力管をしっかりと固定してください。固定金具を取り付けないと、配管質量によりポンプが傾き、水平に設置できません。

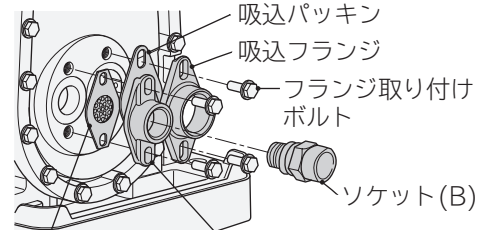
3 固定バンドの取り付け

- 井戸の中に入る吸込管と圧力管の広がりをなくすため、5~6m間隔で取り付けてください。
- 固定バンドは8の字形に取り付けてください。
100mmの井戸径に施工する場合は、固定バンドの固定部が吸込管と圧力管との間に来るよう、位置を調整してください。



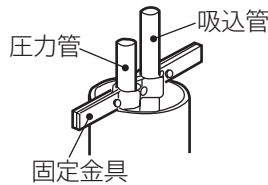
4 ポンプ本体への接続

ポンプ本体付属の圧力フランジ、吸込フランジ、フィルターパッキン、吸込パッキン、フランジ取り付けボルトとジェット部品に付属のソケット(B)によって圧力管、吸込管を配管します。



5 吸込管と圧力管の見分け

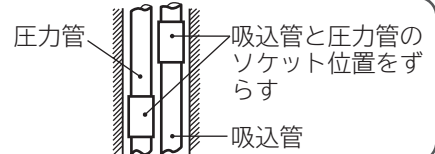
配管に4mの定尺管を用いると吸込側は圧力側より高くなります。これにより、吸込側と圧力側を判断しポンプと接続します。(逆になると揚水しません)



フィルターパッキン 圧力フランジ
ポンプ本体への接続

ご注意

- 井戸径が100mmの場合は、井戸へ挿入可能にするため、吸込管と圧力管のソケット位置をずらしてください。
- 吸込管と圧力管は同径です。ポンプ本体の吸込口、圧力口への接続を間違わないようご注意ください。



※シングル(特殊)ジェット配管方法については、シングルジェット取扱説明書をご確認ください。

配管の互換性について

W型以前のポンプとの配管互換性はありません。
付属のフランジおよび別売りのジェットを用いて、新たに配管工事を行ってください。

ジェットの互換性について

既設のジェットを使用することができますが、性能確保のため、Y型ジェットへの交換をおすすめします。
また、W型以前の標準ジェットを使用する場合は、下記サービス部品をお使いください。

据え付け方法	部品名	部品番号	使用数量	QRコード
浅井戸配管の場合	コテイカナグブックミ	J25-7X 006	1	
深井戸配管の場合	コテイカナグ(L)ブックミ	J25-24W 002	1	

配線工事について

⚠ 警告

- ❗ 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全に行う
誤った配線工事は、感電や火災の恐れがあります。
- 🚫 テーブルタップによるタコ足配線はしない
発煙・発火の原因になります。
- ❗ 単相100V用ポンプは定格15A以上・交流100Vのコンセントを単独で使う
三相200V用ポンプは定格15A以上の電源ブレーカーを単独で使う

- ほかの電子機器などへ悪影響を与えないため、専用の配線にしてください。
- 同一分岐回路に照明器具があると、ポンプの起動時、照明器具がちらつくことがあります。
- 本製品はマイコンにて制御していますので、運転時の電圧が定格電圧の±10%以内になるよう
(単相100V用ポンプ：90～110V、三相200V用ポンプ：180～220V) にしてください。

アース線の接続と漏電遮断器について

⚠ 警告

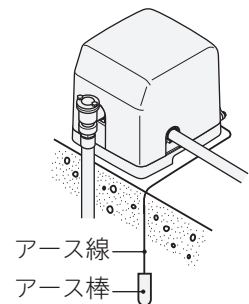
- 🔌 アースを取り付け、専用の漏電遮断器を設置する
故障や漏電のときに感電する恐れがあります。

- 漏電したときの感電事故を防ぐため、アース線を取り付けてください。
- アースおよび漏電遮断器に関する工事は、電気工事士による専門工事が必要です。
- 工事の際は、電源プラグをコンセントから抜くか、ブレーカーを切った状態で接続してください。

アース線の接続について

D種接地工事(第3種接地工事)をしてください。
既設のアース線があるときは、D種接地(第3種接地)を満足していることを確認してから接地してください。

ご注意 法令などで禁止されているため、次のようなところには、アース線を接続しないでください。
ガス管、電話線、避雷針、水道管(水栓)



電源電線について

- CM-P250Y、CM-P400Y、CM-P600Yのとき
電源は専用のコンセントを設けて、電源プラグを差し込んで単独で使用してください。
また、屋外にコンセントを設けるときは、防水形コンセントを使用してください。
- CM-K750Yのとき
電源電線にはブレーカーを設け、下表の組み合わせとなるよう、ブレーカーの端子部に電源電線を接続し、単独で使用してください。ブレーカーの相と電源電線の相が正しく接続されなかったとき、ポンプが停止しない場合や水量が少なくなる場合があります。

ブレーカーの相	接続する電源電線の相
R相(赤)	U相(赤)
S相(白)	V相(白)
T相(黒)	W相(黒)

試運転

試運転のしかた

標準ジェット(浅井戸配管)を使用するとき

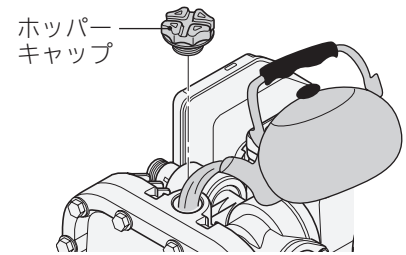
- 1 ホッパーキャップを外し、呼び水(約2L)を入れる
押込配管のときは、水源から急激に流れ込む場合がありますのでご注意ください。
- 2 ホッパーキャップをしっかりねじ込む
- 3 同時に使う水栓を開く
- 4 電源プラグをコンセントに差し込む
ON →機種コード(例: 25c) →圧力が表示され、ポンプが運転を開始します。
- 5 運転開始後、揚水することを確認する
数分で揚水しない場合は、電源を切り再び呼び水をしてください。

標準ジェット(深井戸配管)または深井戸ジェットを使用するとき

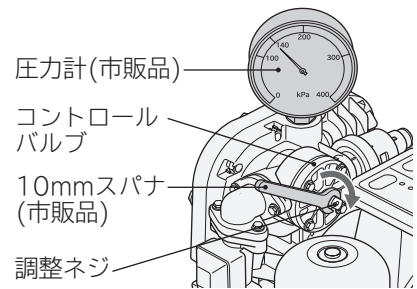
- 1 ホッパーキャップを外し、吸込管、圧力管、ポンプヘッド内に呼び水を十分に入れる
- 2 圧力計(市販品)を呼水口に取り付ける
- 3 コントロールバルブの調整ネジを、ネジ部が隠れる程度までねじ込む
- 4 同時に使う水栓を開く
- 5 電源プラグをコンセントに差し込む
ON →機種コード(例: 25c) →圧力が表示され、ポンプが運転を開始します。
- 6 運転開始後、揚水することを確認する
数分で揚水しない場合は、電源を切り、再び呼び水をしてください。
- 7 調整ネジを緩め、右表の圧力調整値を目安に、音が静かになる位置に調整する
- 8 圧力計を外し、ホッパーキャップをしっかりねじ込む

据え付け後、運転のはじめにホッパーキャップを外して呼び水を入れます。

- モーター、制御基板、リアクトルなどの電気部品に水がかからないように注意してください。



- 数分で揚水しない場合は、再び呼び水をしてください。
標準ジェット使用時は、2～3分ごとに再び呼び水をする、早く揚水します。



型 式	機種コード	深井戸ジェット使用時の圧力調整値
CM-P250Y	25c	120 ~ 140kPa
CM-P400Y	40c	180 ~ 200kPa
CM-P600Y	60c	220 ~ 240kPa
CM-K750Y	75c	250 ~ 270kPa

- ご注意**
- 空運転によるポンプの傷みを防ぐため、ポンプに呼び水をした状態で運転してください。
 - 電源プラグをコンセントに差し込むと、ポンプは自動的に運転しますので注意してください。
 - 表示は約10分後に消灯します。→(P.7)

運転状態の確認

- 1 運転を開始したら水栓を開閉し、ポンプの運転状態や、水漏れがないか確認する
- 2 水栓を閉じてポンプが停止することを確認する
ポンプの起動頻度を抑えるため、水栓を閉じた状態でもタイマーが働き、しばらく運転しますが、異常ではありません。施工状況によっては、制御圧力より高い圧力で停止する場合があります。
- 3 ポンプカバーをかぶせてねじ止めする
- 4 据付チェック表を使用し、各部の確認を行ってください。→(P.26)

- ご注意** 水栓を閉じたあと、凍結防止運転(PH)を開始する場合がありますが、異常ではありません。水栓を開いて、水を使用すると通常運転に戻ります。

運転のしかた

運転圧力について

工場出荷時は、運転圧力を「標準」に設定しています。

使用状態や用途に応じて運転圧力を切り替えることができます。→(P.18)

制御圧力(吐出圧力)は、下表の設定となっています。

ポンプ型式	運転圧力	吸上高さ		押上高さ	起動圧力	一定制御圧力
		標準ジェット使用時	深井戸ジェット使用時			
CM-P250Y	「低」	~12m	~24m	9m	100kPa	150kPa
	「標準」(工場出荷時)			15m	160kPa	210kPa
	「高」			15m	200kPa	250kPa
CM-P400Y	「低」	~12m	~35m	12m	130kPa	180kPa
	「標準」(工場出荷時)			18m	190kPa	240kPa
	「高」			18m	290kPa	340kPa
CM-P600Y	「低」	~12m	~35m	12m	130kPa	180kPa
	「標準」(工場出荷時)			18m	190kPa	240kPa
	「高」			18m	290kPa	340kPa
CM-K750Y	「低」	~12m	~35m	12m	130kPa	180kPa
	「標準」(工場出荷時)			21m	220kPa	270kPa
	「高」			21m	320kPa	370kPa

少水量使用時は、一定制御圧力と起動圧力の範囲で圧力変動する場合があります。

ご注意 吸上高さが18mを超える場合は、運転圧力「高」は使用できません。
ポンプが停止しない場合があります。
また、過負荷運転となり、運転圧力「標準」に自動で切り替わることがあります。

運転のしかた (続き)

数値表示の切り替えかた

表示切替 を押し、希望の表示(● 圧力 または ● 水量)のランプを点灯させる

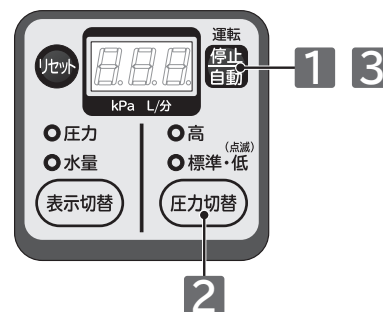


ご注意 ●各ボタン(**停止自動** **表示切替** **圧力切替**)を長押しすると、サービス機能(→(P.20)記載以外)を表示することがあります。
サービス機能が表示された場合は、 **リセット** を押ししてください。

運転圧力の切り替えかた

1 操作パネルの **停止自動** を押し、表示部が **OFF** になっていることを確認する

2 **圧力切替** を押し、希望のモード(● 標準 または ● 高)のランプを点灯させる



圧力	ランプの状態
高	● 高 (点灯)
標準	● 標準・低 (点滅) (点灯)
低	☉ 標準・低 (点滅) (点滅)

3 **停止自動** を押す
ポンプが通常運転に戻ります。

ご注意 ●各ボタン(**停止自動** **表示切替** **圧力切替**)を長押しすると、サービス機能(→(P.20)記載以外)を表示することがあります。
サービス機能が表示された場合は、 **リセット** を押ししてください。


除菌器の接続について

- ご注意**
- 他社除菌器は結線できません。制御基板故障の原因になります。
 - 日立除菌器を下記のサービス部品で結線することができるのは、ポンプ1台のみです。複数台接続すると、制御基板の許容電流(2A)を超え、制御基板故障の原因になります。

除菌器はポンプの運転状態に応じて間欠運転をします。

結線について

除菌器を接続する際は、除菌器の型式に応じて下記サービス部品を購入してください。部品の詳細はサービス部品の説明書、価格はQRコードを読み込んでご確認ください。

	組み合わせ除菌器			
	CS-20J1 以前	CS-20NS	CS-30S、CS-30S2、CS-30V、CS-30V2、CS-130W、CS-230W、CS-130X、CS-230X	
部品名	セツゾクコネクタ (CS)	サービス部品 不要	サービス部品 不要	ポンプで制御する場合 テイソクウンテンハーネス CS-30S 021
部品番号	CS-20J1 002	—	—	—
QRコード		—	—	

カルキ量の調整について

除菌器接続後はカルキ量の調整を再度行ってください。
(カルキ量の調整方法は、除菌器の取扱説明書をご覧ください)

防寒について

暖かい地方でも冬期には寒波急襲によって、ポンプや配管が凍結し破損することがあるため、凍結防止策を行ってください。

※凍結による破損事故については責任を負えません。

警告

- ⊘ ポンプに毛布や布などをかぶせたり、ポンプカバー内に燃えやすい物を入れない
過熱して発火することがあります。

凍結防止策

配管

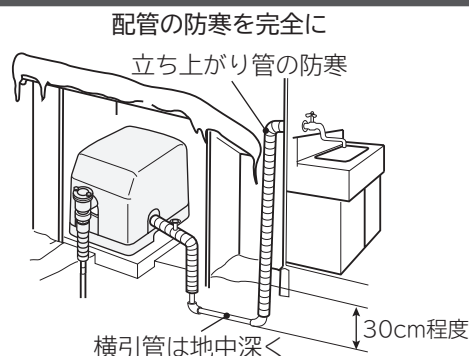
- 横引部分……地中に埋めてください。
- 地上の露出部分……保温材を使用してください。
寒冷地では市販の水道凍結防止帯をご使用ください。

ポンプ

屋外に据え付けるときは、ポンプ小屋を作ってください。
小屋は夏に換気ができるようにしてください。

凍結防止運転

- ポンプが停止中であっても、周囲の温度が約3℃以下になると凍結防止運転 **PH** を表示し、自動的にモーターを低速回転させ、ポンプヘッド内の凍結を防止します。
凍結防止運転中であっても、水栓を開いて水を使用すると、通常運転に戻ります。
- 凍結防止の効果は周囲温度が-5℃程度までが目安です。
※凍結防止運転については、「操作パネルにこんな表示が出たら」をご覧ください。→(P.20)




お困りのときは [販売店様・工事店様用]

修理を依頼される前に
次の点をもう一度お調べください

操作パネルにこんな表示が出たら

お知らせ表示と内容（販売店、工事店へ連絡し、お客様は処置しないでください）

お知らせ表示	お知らせ内容		確認するところ
CC	空運転	井戸の水位低下や吸込管の水落ちにより、空運転が続いた場合に表示し、ポンプが停止します。	井戸の水位や逆止弁の異物詰まり、吸込管の水落ちを確認してください。
CE	受水槽断水	上水道の断水などにより、受水槽内が空になった場合に表示し、ポンプが停止します。	●断水の原因を確認してください。
	欠相 (CM-K750Yのみ)	電源の1線が断線した場合に表示し、ポンプが停止します。	●各相の電圧を測定し、180~220Vであることを確認してください。
C3	ポンプヘッド 過昇温	ポンプヘッドが高温（約60℃以上）となった場合に表示し、ポンプが停止します。 (約40℃まで温度が下がると自動復帰します)	●毛布や断熱材でポンプを覆うなどの過剰な防寒をしていませんか。 ●ポンプが高温になる場所（直射日光やエアコンの近くなど）に設置していませんか。 ●次によりポンプが停止せず、連続運転になっていませんか。 (1)井戸の水位低下や逆止弁の異物詰まり、吸込管の水落ち (2)ポンプや配管からの水漏れ (3)羽根車やジェット部への異物詰まり
FC	不足電圧	異常に低い電源電圧が印加された場合に表示し、ポンプが停止します。	●延長コードを使用していませんか。 ●同じコンセントまたは、ブレーカーでほかの機器を接続していませんか。
FE	モーターロック	砂かじりなどによって羽根車がロックしたときに表示し、ポンプが停止します。	ケーシング内の異物除去や羽根車などの固着がないか確認してください。
FO	制御基板 過昇温	制御基板内が異常に高温となった場合に表示し、ポンプが停止します。	●モーターと制御基板の間に取扱説明書などのはさみ込みがないか確認してください。 ●毛布や断熱材でポンプを覆うなどの過剰な防寒をしていませんか。
F1	圧力センサー 断線	圧力センサーからの信号が異常となった場合に表示し、ポンプが停止します。	制御基板内の圧力センサーのコネクタは差し込まれていますか。
F4	サーミスター 断線	サーミスターからの信号が異常となった場合に表示し、ポンプが停止します。	制御基板内のサーミスターのコネクタは差し込まれていますか。
FS	欠相 (CM-K750Yのみ)	電源の1線が断線した場合に表示し、ポンプが停止します。	●各相の電圧を測定し、180~220Vであることを確認してください。
		制御基板内の断水リレー用コネクタ（青）が異常となった場合に表示し、ポンプが停止します。	●断水リレー用コネクタ（青）は差し込まれていますか。
PH	凍結防止運転	ポンプが停止中であっても、周囲の温度が約3℃以下になると、凍結防止運転 PH を表示し、自動的にモーターを低速回転させ、ポンプヘッド内の凍結を防止します。凍結防止運転中であっても、水栓を開いて水を使用すると、通常運転に戻ります。	—

症 状	確認するところ	直しかた
ポンプが回らない	電源プラグがコンセントに差し込まれていますか。	電源プラグを差し込んでください。
	ブレーカー・漏電遮断器が切れていませんか。	ブレーカー・漏電遮断器を確認してください。
	操作パネルにお知らせ表示が出ていないか確認してください。	操作パネルにこんな表示が出たらをご確認ください。 →(P.20)
ポンプが止まらない	水栓、配管から水漏れしていませんか。→(P.21) (水漏れチェック機能でポンプ停止→圧力低下)	配管を修理してください。
	ジェット内部のノズルが、ゴミ詰まりしていませんか。→(P.21) (水漏れチェック機能で制御圧力まで上がらない)	ジェット部を分解して、内部をよく掃除してください。
	水位が低下していませんか。	水位を確認してください。 規定の吸上高さより深い場合は、機種を変更してください。
	PH 表示が出ていませんか。	凍結防止運転を行っています。 異常ではありません。
使用していないのにポンプが起動する	下記、水漏れチェック機能で、配管の水漏れを確認してください。→(P.21)	配管を修理してください。
モーターは回るが揚水しない	水位、配管の長さを確認してください。	配管を修理、または吸上げに余裕がある場合は、吸込管を延長する。
	吸込管から空気を吸い込んでいませんか。 吸込管の各つなぎ目部を点検・確認してください。	配管を修理してください。
吐出圧力表示・お知らせ表示が点灯しない	 [ドット] 表示になっていませんか。	消費電力を抑えるため表示は約10分後に消灯しますので、異常ではありません。→(P.7)

水漏れを確認するときは(強制運転による水漏れチェック機能)

1 操作パネルの  を押し、表示部が **OFF** になっていることを確認する

2 水栓を開き、水を出してポンプ内の圧力を逃がす


3 水栓から水が出なくなったのを確認後、水栓を閉じる

4 **OFF**表示している状態で、 を押し続ける

ポンプが強制運転を開始します。

圧力が強制運転停止圧力値以上に上昇して、ポンプが自動停止するまで  を押し続けます。

吸上高さによっては強制運転停止圧力値まで上昇しない場合があります。

圧力値が上昇しなくなったら、 を離してください。

型 式	強制運転停止圧力
CM-P250Y	約330kPa
CM-P400Y CM-P600Y	約400kPa
CM-K750Y	約450kPa

※ 4 の状態(ポンプ停止)で、圧力値が低下する場合は、水漏れがないか確認してください。

水漏れが確認できた場合、販売店または工務店へ修理を依頼してください。

水漏れがなくてもポンプ停止直後は圧力が下がることがあります。

水漏れがあるときは、圧力の低下が続きます。

保証とアフターサービス

保証書 (裏表紙)

この製品は保証書付きです。

保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのもと、大切に保管してください。

なお、食品や動植物の補償など、製品修理以外の責任はご容赦ください。

保証内容については、裏表紙の保証書をご確認ください。

保証期間：お買い上げの日から1年です。

補修用性能部品の保有期間

ポンプの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」→(P.23)にお問い合わせください。

転居される時

ご転居により、お買い上げの販売店のアフターサービスを受けられなくなる場合は、前もって販売店にご相談ください。

ご転居先での日立の家電取扱店を紹介させていただきます。

電源周波数の異なる地区へのご転居に際しても部品の交換は不要です。

修理を依頼される時は

20、21ページに従って調べていただき、なお異常のあるときは、ご使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜くか、ブレーカーを切ってから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

出張修理

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。

保証書の規定に従って、修理させていただきます。

※修理点検でポンプ以外に原因があった場合は、保証期間内でも有料になることがあります。

保証期間が過ぎているときは

修理して使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品名	浅深両用ポンプ
型式	シーエムビーワイ CM-P250Yなど
製品番号	2000001など7桁の数字
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印なども併せてお知らせください。
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	

修理料金の仕組み

修理料金=技術料+部品代+出張料などで構成されています。

技術料	診断、部品交換、調整、修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器などの設備費、一般管理費などが含まれます。
部品代	修理に使用した部品代金です。そのほか修理に付帯する部材などを含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

消耗部品について

下表の部品は消耗部品です。交換時期の目安を参考に、部品の交換をおすすめします。また、下記消耗部品は保証の対象外となります。

部品名	交換時期の目安	消耗部品に起こること
メカニカルシール	累積運転時間 約3,000時間	水漏れ、揚水しない、ポンプが止まらない など
圧力タンク(ミニタンク)	3年	頻りに運転停止を繰り返す など

一般家庭用以外の目的でご使用になる場合

このポンプは一般家庭用ポンプとなります。以下の場合には保証対象外となります。

- 車両、船舶に搭載して使用された場合。
- 業務用使用により、1日の使用時間が一般家庭に比べて極端に長い場合、短期間で部品交換が必要になることがあります。

愛情点検

長年ご使用のポンプの点検を！〔2～3年に一度点検を依頼してください(有料)〕



ご使用の際、このような症状はありませんか？

- 運転するとブレーカーや漏電遮断器が作動する。
- ポンプは運転するが、水栓を開いても水が出ない。
- 水を使用していないのに、ポンプが運転する。
- コード類に“ひび割れ”や“傷”がある。
- 運転中に異常な音や振動がする。
- 水漏れがする。(ポンプヘッド部、圧力タンク、継手など)
- 焦げ臭い“におい”がする。
- 触るとビリビリと電気を感じる。
- その他の異常がある。

ご使用中止

このような症状のときは、故障や事故防止のため、電源プラグをコンセントから抜くか、ブレーカーを切ってから販売店に点検・修理をご相談ください。

日立家電品についてのご相談や修理はお買上げの販売店へ

なお、転居されたり、いただいたものの修理などで、ご不明な点は下記窓口にご相談ください。

※下記窓口の内容は、予告なく変更させていただく場合がございます。

商品情報やお取り扱いについてのご相談窓口

TEL 0120-3121-19
携帯電話 050-3155-0119 (有料)
FAX 050-3135-2134 (有料)

(受付時間) 9:00～17:30 (月～土)
 日曜・祝日と年末年始・夏季休暇など弊社の休日は休ませていただきます。

修理のご依頼や修理に関するご相談窓口

TEL 0120-3121-68
携帯電話 0570-0031-68 (有料)
FAX 0570-2006-57 (有料)

(受付時間) 9:00～18:00 (月～土)
 9:00～17:00 (日・祝日)

出張修理のご用命はインターネットからもお申込みいただけます。

スマートフォンやタブレットから

- 1 コードを読み取る
- ② **出張修理のWeb受付** ボタンから入力画面へ
- ③ 製品型式など必要情報を入力



コードが読み取れない場合やパソコンからは

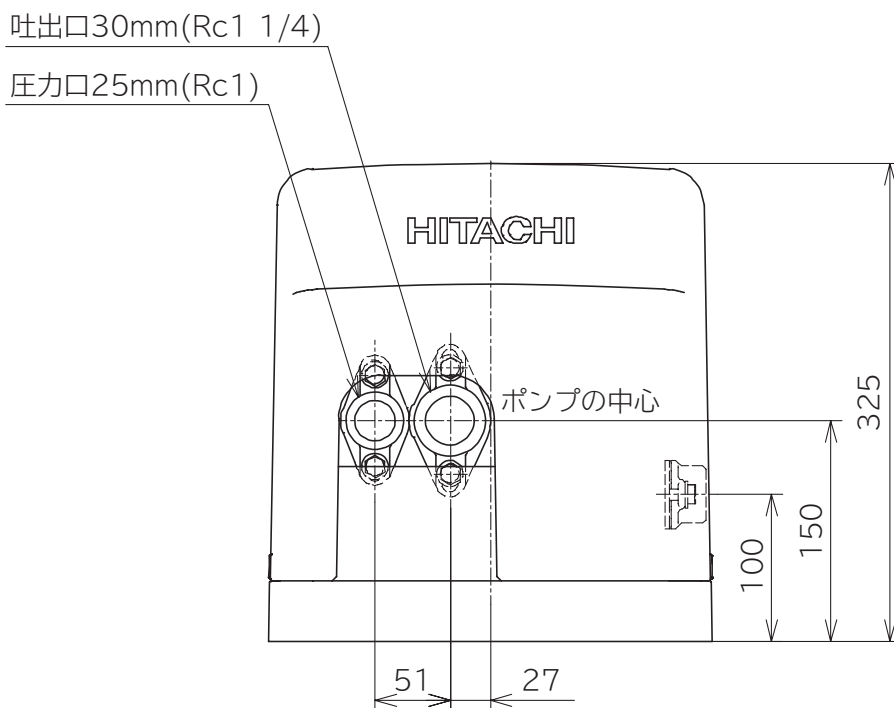
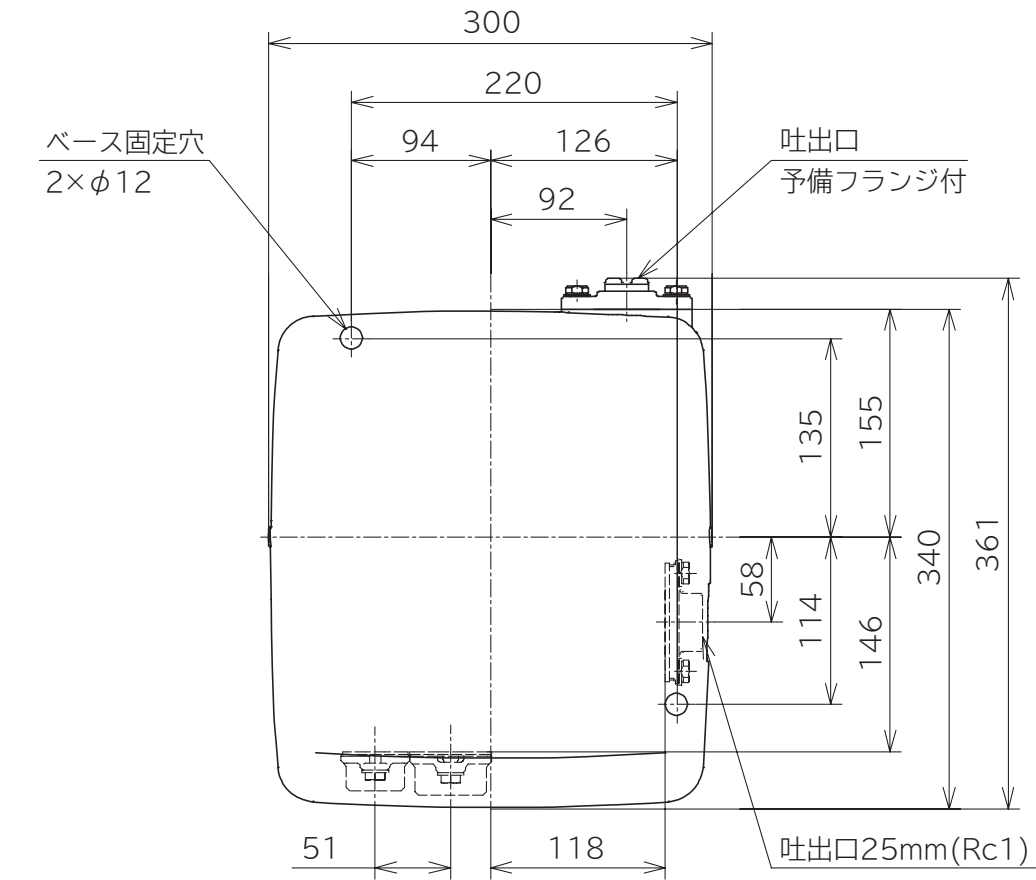
- 検索からアクセス **日立家電修理 WEB** **検索** <https://kadenfan.hitachi.co.jp/support/inquiry/repair/web.html>

- 「部品購入」については、上記サービス窓口にて各地区のサービスセンターをご紹介します。
- ご相談、ご依頼いただいた内容によっては弊社のグループ会社に個人情報を提供し対応させていただくことがあります。
- 修理をご依頼いただいたお客様へ、アフターサービスに関するアンケートハガキを送付させていただくことがあります。

仕様

この製品は日本国内用です。電源電圧や電源周波数の異なる海外では使用できません。
また、アフターサービスもできません。

製品寸法



(単位：mm)

仕様表

型 式		CM-P250Y			CM-P400Y		
相・定格電圧		単相 100V					
モーター定格出力		250W			400W		
定格消費電力		470W			680W		
定格周波数		50-60Hz					
制御方式		インバーター制御					
運転圧力		低	標準	高	低	標準	高
圧 力	起動圧力	100kPa	160kPa	200kPa	130kPa	190kPa	290kPa
	一定制御圧力	150kPa	210kPa	250kPa	180kPa	240kPa	340kPa
押上高さ		9m	15m		12m	18m	
停止水量		4L/分					
ジェット(別売品)組み合わせ		J25-7Y		J25-24Y	J40-7Y		J75-24Y J75-35Y
吸上高さ(※)		7m	12m	24m	7m	12m	24m 35m
揚水量		35L/分	28L/分	11L/分	46L/分	40L/分	18L/分 8L/分
全揚程		12m	22m	38m	12m	21m	41m 47m
配管口径(※)	吸込管	25mm		30mm			
	圧力管	—	25mm	30mm	—	25mm	30mm
	吐出管	25mm					
質 量		12kg			14kg		

※吸上高さおよび配管口径は、組み合わせるジェット(別売り)により異なります。詳細は→(P.11)をご参照ください。

型 式		CM-P600Y				CM-K750Y			
相・定格電圧		単相 100V				三相 200V			
モーター定格出力		600W				750W			
定格消費電力		950W				980W			
定格周波数		50-60Hz							
制御方式		インバーター制御							
運転圧力		低	標準	高	低	標準	高	標準	高
圧 力	起動圧力	130kPa	190kPa	290kPa	130kPa	220kPa	320kPa	220kPa	320kPa
	一定制御圧力	180kPa	240kPa	340kPa	180kPa	270kPa	370kPa	270kPa	370kPa
押上高さ		12m	18m			12m	21m		
停止水量		4L/分							
ジェット(別売品)組み合わせ		J75-7Y		J75-24Y	J75-35Y	J75-7Y		J75-24Y	J75-35Y
吸上高さ(※)		7m	12m	24m	35m	7m	12m	24m	35m
揚水量		52L/分	46L/分	24L/分	12L/分	58L/分	50L/分	30L/分	13L/分
全揚程		12m	24m	41m	52m	12m	24m	44m	53m
配管口径(※)	吸込管	30mm							
	圧力管	—	25mm	30mm		—	25mm	30mm	
	吐出管	25mm							
質 量		14kg							

※吸上高さおよび配管口径は、組み合わせるジェット(別売り)により異なります。詳細は→(P.11)をご参照ください。

据付チェック表

このたびは日立ポンプをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
より良いサービスご提供のため、製品据付後、お客様立合いのもと、以下の
1～12の手順に従ってチェックをお願いいたします。

ポンプ型式	
据付日	

No.	チェック方法	チェック事項	チェック	おかしいと思ったら	取扱説明書の参照ページ
1	ポンプの据付場所の近辺を確認	ポンプの下やまわりに木材や段ボールなどの可燃物が無いこと		ポンプは可燃物(木材や段ボールなど)の上や近くに据え付けないでください。 火災の恐れがあります。	P.3 P.9
2	1ヶ所の水栓を少し開ける (2～3秒でコップ一杯程度の水量)	しばらくするとポンプが運転すること (起動圧まで低下してポンプの運転が開始する) ポンプタンクの圧力により継続運転します。		操作パネルの圧力表示部が[OFF]表示になっていませんか。 ⇒[停止/自動]ボタンを押してください。	P.7
				お知らせ表示を確認して「お困りのとき」を確認してください。	P.20
3	1ヶ所の水栓を全開にする (2～3分でヤカンが満杯になる程度の水量)	水途切れや空気混じり(くしゃみ水)は発生しないこと		吸込管のひび割れや接続部の隙間などによる空気吸込がありませんか。 ⇒吸込管を点検しひび割れや空気吸込を補修する	P.11 P.14
				井戸水位の低下 吸込管の先端が水面へ十分に入っていない ⇒吸込管を点検し吸込管の先端を水面へ十分に入れる	P.8
4	同時に使用することが考えられる水栓をすべて開く (例：台所・トイレ・お風呂の同時使用が考えられる場合はその3ヶ所)	水途切れや空気混じり(くしゃみ水)は発生しないこと また、ポンプから異音(空気混じり音)がしないこと		吸込管のひび割れや接続部隙間による空気吸込がありませんか。 ⇒吸込管を点検しひび割れや空気吸込を補修する	P.11 P.14
				井戸水位の低下 吸込管の先端が水面へ十分に入っていない ⇒吸込管を点検し吸込管の先端を水面へ十分に入れる	P.8
				設置したポンプで使用できる水量を超えていることが考えられます。 ⇒取扱説明書の仕様を確認してください。 据付状況を(吸上高さ・押上高さ・配管長)を確認し相談窓口にお問い合わせください。	P.25
5		砂や泥の吸い上げは発生しないこと		吸込管の先端が井戸底に近すぎいませんか。 ⇒吸込管の先端を井戸底から30cm以上離す	P.8
				井戸水に砂が多いことが考えられます。 ⇒砂こし器(別売)の取り付けをご検討ください。	P.10

据付チェック表（浅深両用ポンプ）

No.	チェック方法	チェック事項	チェック	おかしいと思ったら	取扱説明書の参照ページ
6	すべての水栓を閉じる	ポンプが停止すること (制御圧力まで上昇する)		吸上高さが18mを超える状態で 運転圧力の設定が「高」になって いませんか。 ⇒運転圧力の設定を「標準」に変 更してください。	P.17 P.18
				吸上高さはポンプの仕様範囲内 ですか。 ⇒このポンプでは揚水できません。	P.8
				配管やボールタップなどから水漏 れしていませんか。 水漏れしていると制御圧力まで圧 力が上がりず停止しません。 ⇒水漏れを補修してください。	P.21 P.25
7		ポンプ停止後に、 圧力表示が低下し続けない こと		ポンプ本体から水漏れしていませ んか。 ⇒点検依頼をお願いします。	P.21
				配管やボールタップなどから水漏 れしていませんか。 水漏れしていると制御圧力まで圧 力が上がりず停止しません。 ⇒水漏れを補修してください。	P.21 P.25
				逆止弁に砂・シールテープ・接着剤 など異物が噛み込んでいませんか。 ⇒異物を取り除いてください。	P.11 P.12
8	再度1ヶ所の水栓を 全開にする (2~3分で ヤカンが満杯になる 程度の水量)	水栓を開いてすぐに 水が出ること		吸込管の水落ちはしていませんか。 ⇒逆止弁部の異物を取り除いてく ださい。	P.11 P.12
				配管から水漏れしていませんか。 ⇒水漏れを修理してください。 配管と継手が配管用接着剤で接 着していることを確認してくだ さい。	P.11
9	1ヶ所の水栓を全開に して10分間放置する	操作パネルの圧力表示部に お知らせ表示が出ないこと		「お困りのときは」に沿って確認し てください。	P.20
10	ポンプカバー内に 燃えやすい物が入って いないか確認	取扱説明書や梱包材を含む 燃えやすい物が無いこと		加熱による故障原因になります。 取扱説明書は保証書と共に大切に 保管してください。	P.3 P.20
11	ポンプカバーの取付を 確認	ポンプカバーが固定ねじで 固定していること		風雨やほこりからポンプを保護す るためねじで固定してください。	P.3
12	ポンプに毛布や布など が被せてないか確認	防寒用の毛布や布が 被せてないこと		毛布や布は被せないでください。 過熱や発火の原因になる場合が あります。	P.3 P.19

〈すべてのチェックが済みましたか〉

浅深両用ポンプ 保証書 出張修理

※型式		※製造番号	
※お買い上げ日	年 月 日		
保証期間 (お買い上げ日から)	本体：1年		
※お客様	お名前 様		
	ご住所 〒		
	電話		
※販売店	住所・店名		
	電話		

※印欄に記入のない場合は無効となりますからご確認ください。記入のない場合、レシートまたはご購入を証明するものが代用となりますので、本保証書とともに大切に保管してください。

〈無料修理規定〉

- 1.取扱説明書、本体貼付けラベル等の注意書きに従った正常な使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理をさせていただきます。
- (イ)保証期間内に故障して無料修理をご依頼になる場合には、お買い上げの販売店にお申し付けください。
- (ロ)お買い上げの販売店に無料修理をご依頼にならない場合には、「修理のご依頼や修理に関するご相談窓口」→(P.23)にご連絡ください。
- (ハ)この製品は出張修理をさせていただきますので、修理に際し本書を必ずご提示ください。
- 2.ご転居の場合には事前にお買い上げの販売店にご相談ください。
- 3.贈り物でいただいたものの修理などで本保証書に記入してあるお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合には、「修理のご依頼や修理に関するご相談窓口」→(P.23)にご相談ください。
- 4.離島または離島に準ずる遠隔地へのお出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
- 5.保証期間内でも次のような場合には有料にさせていただきます。
- (イ)使用上の誤り、または改造や不当な修理による故障または損傷。
- (ロ)お買い上げ後の取付場所の移動、落下、引っ越し、輸送等による故障または損傷。
- (ハ)火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、塩害、公害、ガス害(硫化ガスなど)、異常水質、異常電圧、異常水圧、指定外の使用電源(電圧、周波数)による故障または損傷。
- (ニ)車両、船舶に搭載して使用された場合に生じた故障または損傷。
- (ホ)一般家庭用以外(例えば業務用の長時間使用)に使用されて生じた故障または損傷。
- (ヘ)本書のご提示がない場合。
- (ト)本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
- (チ)製品仕様範囲外でのご使用(清水以外の使用など)
- (リ)製品に起因せず発生した場合(据付け不良、配管施工不良など)
- 6.修理の際、弊社の品質基準に適合した再利用部品を使用することがあります。
- 7.本書は再発行しませんので紛失しないよう大切に保管してください。
- 8.本書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
- 9.下記消耗品は保証の対象外となります。
- (イ)メカニカルシール
- (ロ)圧カタンク(ミニタンク)

- この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって保証書を発行している者(保証責任者)、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等についてご不明の場合は、お買い上げの販売店または「修理のご依頼や修理に関するご相談窓口」→(P.23)にお問い合わせください。
- お客様にご記入いただいた保証書の写しの個人情報、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。

日立グローバルライフソリューションズ株式会社 〒105-8410 東京都港区西新橋2-15-12

お問い合わせ先：「修理に関するご相談窓口」0120-3121-68、携帯 0570-0031-68
詳しくは「保証とアフターサービス」のページをご覧ください。